

会 議 録

会議の名称	令和4年度 第2回行田市市民公益活動推進委員会	
開催日時	令和4年10月7日（金）開会14時00分・閉会15時30分	
開催場所	コミュニティセンターみずしろ 1階ギャラリー	
出席者氏名	塚田忠子、鈴木信良、木口幸子、水野三枝子、 金原二郎、島田晴義、今村武蔵 澤田春雄、 関口行生、鳥海和代、菅野邦男、福島伸悦、田尻 要、 堀越 稔、芹澤勝巳、増田有紀、 ※敬称略	
欠席者氏名	生沢広幸、山岸泰輔、野澤 健、伊藤賀章、 鈴木崇史（オブザーバー） ※敬称略	
事務局	地域活動推進課：立原主幹、間庭主任、 市民活動サポートセンター職員1名及び地域活動推進課職員1名	
会議内容	1 開会 2 委員長挨拶 3 議事 （1）市民活動やる気応援補助成金成果報告について【資料1・2】 行田環境市民フォーラム （2）行田市市民公益活動推進基本計画（案）について【資料3】 （3）その他 4 閉会	
会議資料	(1) 資料1 : やる気応援補助成金募集チラシ (2) 資料2 : 令和4年度やる気応援補助成金事業報告書 (行田環境市民フォーラム) (3) 資料3 : 行田市市民公益活動推進基本計画（案）	
その他必要事項	傍聴人 0名	
会議録の 確定	確定年月日	主宰者氏名記載欄
	令和4年10月27日	田尻 要

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
<p>司 会</p> <p>委員長</p> <p>司 会</p> <p>事務局</p> <p>議 長</p> <p>報告者 今村委員</p> <p>報告者 今村委員</p> <p>報告者 塚田委員</p>	<p>1 開 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会を宣言 ・欠席者、会議成立の旨の報告（過半数の委員の出席による） ・傍聴人 0名 <p>2 委員長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ <p>3 議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要綱の規定により、会議の議長を委員長が務める旨の説明 <p>（1）市民活動やる気応援助成金成果報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金成果報告の流れを説明 ・今回資料として配布した事業報告書については、市民生活サポートセンターへの配架や市ホームページ掲載等により広く市民に公開していく予定である。 <p style="text-align: center;">（報告者入室）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果報告は10分以内でお願いします。 ・資料2に基づき報告 ・大変、素晴らしい内容だった。この事業費の内訳を再度伺いたい。 ・収支について、事業報告書に基づき説明 ・収支決算は、全てを明示すべきだと思う。 ・助成金は公のお金である。 ・事業報告書の様式では、金額が大きい項目のみの記載であったが、全て示した方がよいと理解した。 ・提案時の収支予算書には、保険料、会場費用等、記載されていたが、今回の資料2の中には記載が無い。公的なお金の事なので質問する。 ・もう一点はキット数と参加人数が合わない。決算書同様、内訳不足である。親子で1組等、この報告書を見て判断出来ない。

報告者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1家族で子どもが2人いて2つキットを作る場合や、1つのキットを3人で作りたい場合がある。キットを何人で使ってもよいので人数が一致しない。 ・ 今回の報告会においては、収支決算書が別紙として添付されると思っていた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回、資料に収支決算書を配布していなかったが、皆様の御意見に基づき公表する。
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の委員会は、前回の資料4-2に記載された助成金事業の流れの中だと実績報告書の提出の後なのか。それとも最終的な請求書の提出後なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局で実績報告書を受け取り、内容を精査し、市民に公開する前に、事業の採択を行った委員の皆様へ報告をして、実際の内容、イベントの様子等を質問していただき、次に繋げていただきたいとして今回の場を設けている。
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的なお金の事なので、きちんと収支決算書を公開して、保険料、会場料とか掛かったお金を全て記載した方が良かった。
報告者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後に2点、まだ一度もやったことがない事業に50%の助成では厳しかった。100%とは言わないが、75%くらいやる気応援助成金として出していただきたい。 ・ また、委員の皆さんにも採択した助成金事業として、見学をしていただけると有難いと思う。
今村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大変立派な事業をやっておられるので、収支決算書は公開してもらいたい。今後ともこのような事業は続けていただきたいと思う。
関口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の為に、助成率50%、上限10万円は結構厳しいと思う。もし可能ならば、次のステップで規定を見直す機会があればよい。予算の課題はあると思うが、1事業あたりの補助金額をもっと高くし、目標を達成しなかったら返金してもらおう。そのくらい厳しくして、良いものを出してもらおう。検討材料にしてい

<p>議長</p>	<p>ただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収支決算書のみならず、全体の詳細な報告書は、既に事務局に出ている。規定上のことは確認した上で、今日、こういう形で報告をしてもらっている。報告書の全部を印刷するのではなく、御手元にはわかりやすいレジュメが配布されていると御理解いただければと思う。 <p>(報告者退室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上で、やる気応援助成金の成果報告は終了となる。
<p>議長 事務局 関口委員</p>	<p>(2) 行田市市民公益活動推進基本計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料3に基づき説明 ・資料3は第2期分ということによいか。今年度、きっかけ作りから始まり、達成年度が5年～9年とあるが、今年度から5か年での計画、よく企業では中期5か年計画とかあるが、そういう解釈でいいのか。全てではないが、達成目標がわかりにくいものが一部ある。例えば定量目標の場合はわかるが、活用するというのは実際には目標ではない。曖昧な点がある。 ・誰がいつまでにやるか。例えば9年度は5年後だが、これは5年目にやるのか。それとも今年から少しずつやるのかがわからない。
<p>事務局 関口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・達成年度については、あくまで目標である。そこまでに達成することを目標として組んである。その前に達成するとも考えられる。そこまでに達成したいということである。 ・達成目標が曖昧な点については、前回の目標においても明確に期日を切っておらず、事業の流れをお示ししているものである。 ・いろんな分野を適度にやるということだと思うが、いっぱいになっている印象である。目標を絞ってもいい。全部顔を立てるのでなく、もう少し絞って、プランのチェックを毎年やった方

<p>今村委員</p>	<p>が良い。もう決まったことかもしれないが参考にさせていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関口委員の意見に賛成である。 ・ 推進体制の2番に人材の発掘育成とあるが、「②行政職員の意識改革と職員研修を実施します。」これは、いつ誰がやるのか。 ・ もう一つ、私は市民活動サポートセンターが設置される時にも申し上げたが、コミュニティセンターとは何をするとところなのか。コミュニティセンターと市民活動サポートセンターの関連はどうなのか。その時も重複した組織を作るのかという話をしたことがあるが、疑問である。人材の発掘とか育成とか言うが、一体誰がということになると、その辺がちょっと曖昧である。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつまでにやるかという事に関しては、それぞれの達成年度をある程度定めているので、その時までには現実的な話として組んでいくと考えている。目標の幅が広いという話もあるが、これに関しては一応基本計画ということであり、ある程度幅広く、市民公益活動の全体を見渡した流れで、拾い上げられるものを拾いたいとして含めているところでもある。今後、実行計画を作らないまでも、ある程度細かく本委員会などの話し合いの中で、こういうことをやったらいいのではないかということの御意見をいただきながら進められればと考えている。
<p>今村委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政職員の意識改革と研修というのは誰がやるのか。 ・ 例えば、市民公益活動について各団体が行政職員の前でプレゼンする機会を作るか研修の機会に合わせて行う等を考えている。
<p>今村委員 事務局 関口委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前の計画にもあり、出来なかったとあるが、何故出来ないのか。 ・ 反省点である。何故というのも考えていく必要がある。 ・ 形だけ綺麗に作って終わってしまう。出来なかったら出来なかった理由はこうだが、今年はこの手当があるから出来るというのはわかる。同じ目標値をかかげる駄目な会社と一緒に、

<p>事務局</p> <p>今村委員</p> <p>鈴木委員</p> <p>島田委員</p>	<p>それで終わる。誰も責任は取らない。出来なかったら責任取る と言う気持ちが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先ほど研修とあるが、誰がいつまでにやるのか。年度初めだから全部決まってなくてもいい、例えば今年、上期のうちに担当部署と回数を決めておかないと、またこれで1年終わってしまう。 ・次回の委員会の時までには、ある程度、具体的な計画をお出ししたい。 ・コミュニティセンターの役割と、サポートセンターの役割の住み分けも出して欲しい。 ・まちおこしとはなんだろうと考えている。日本全国、結構うまくいっている所はたくさんある。なぜ、このまちはうまくいかないのか。行田はいろいろな形でテレビに取り上げられるが、長続きしないで終わる。 ・行田市の強みとして足袋蔵や廃校があり、使わない手はないのではないか。市民公益活動団体が50位あるが、各自で行っている。コラボや、食に関しては一緒にやれるのではないか。 ・年配者だけでなく若い世代と長く一緒にやる。四季を通じ、足袋蔵、廃校を活用した稲刈り、足袋作り、地元の食材を使った子ども食堂をやったりしてはどうか。50の団体の得意分野を、誰かが総合的にプロデュースし、楽しく過ごしていけるまちづくりを目指していただきたい。批判ばかりしないで、知恵を絞り、何か出来ることを考えるということ、ここにいる委員、行政の人も勉強してもらい提案したい。 ・平成27年にサポセンが出来た。当初は数団体しかなかった。今年、市民公益推進団体13団体が集まり、ここコミュニティセンターでフェスティバルを11月19日に予定している。 ・市民公益推進団体の横の繋がりも、今はできつつある。団体には、それぞれ特徴があり、一概に何をやるうかっていうのは想
--	--

菅野委員	<p>像では出来ないと思うが、フェスティバルを通じて、横の繋がりがさらに出来ると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私達も会員募集をしているが、年配者が多い。若い世代を集めて活性化したいと思う。 ・今までは単独で活動していたが、地域活動推進課からの提案で子ども食堂の代表が集まり、交流会を実施した。その時、皆それぞれ問題を抱えていることを感じた。拠点の問題、どういう人を対象にしている等、いろんな事について話し合いをした。今日は、民生委員の定例会で地元のみこちゃん食堂を紹介してきた。ひとり親家庭とか、夜の仕事で子の面倒を見られないとか、様々な家庭がある。そういうことを皆さん知らない。横の繋がりが広がってほしいと思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局が示しているのは基本計画であるので、具体的にやることは実行計画に落とし込んでいくものである。理念、コンセプトを示してあるので、どうしても見た目は総括的となる。細かいところやディテール、どう進めていくか等書きにくい部分もある。いずれにしても実行計画に移る時には指標として考えていかななくてはいけない。 ・また一方で、市民公益活動は、企業のように一枚岩ではなく、各団体それぞれであるので、達成できないことを責めるのも難しい。ただ、できなかったことはしっかりフィードバックしていかなければならない。いずれにしても実行計画に移る時には指標としていることから、その辺のところも考えていかななくてはいけない。 ・この場でなくても、後ほどでも構わない。私でも事務局にでも御意見や御感想があれば、ぜひお寄せいただければと思う。委員の皆さん方の声が、これからの動きに繋がっていくので、積極的にお願い出来ればと思う。
福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めての参加になるが、この会はどの程度まで基本計画に

事務局	<p>ついて話すのか。実行にあたっての具体的なことなど、委員はどの程度まで関わってよいのか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の計画策定においては、各項目の担当を委員の皆さんで決め、各項目について目標年度で進めることなど、ある程度計画の実行のところまで細かく考えたと捉えている。
福島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の計画策定には、実際に団体を運営されていて、市民の代表として参加して下さっている委員の皆様御意見を積極的に伺いして反映させていきたいと考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ この会は、月に一度など意見交換の機会を設けているのか。やる気応援助成金の申請があった時だけ集まり、それを評価するというような会なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度開催していた時期もある。月に一度の開催だけでは少ないと、当時の委員の方からの意見もあった。コロナの関係もあり、今現在、基本的には年に3回程度の開催で、やる気応援助成金の審査がメインになっているところもある。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この件については、関わり方も含めて皆様次第であり、積極的に関わっていただけるとよいと思う。一番最初にこの委員会が立ち上がった時には、今で言うまちづくり会社のような役割を目指していたこともある。しかし最初からそれは難しいことで、動けるところから動いていこうということになった。その頃はまだ団体も少なかった。市民活動そのものの認知度が低いところから始まったような状況であった。なかなか思うようにいかず、もどかしい時期もしばらくはあった。助成金として予算がつくようになってからは、助成金の審査がメインになりつつある側面もある。 ・ しかし基本計画については継続しており、出来たところ、出来なかったところもある。皆様それぞれの御立場や活動に対する温度差もあり、そうならなければいけないというわけではないが、一枚岩になりにくい部分もある。この委員会自体も、活動

<p>澤田委員</p>	<p>を模索しながら進めているという御理解でも良いと思う。逆に委員の皆様方から、この委員会のあり方について御意見があれば、それを協議しながら動いていくというのも良いと私は思う。皆様方からの御意見、実行力、知恵と力を結集して、進めてもらえばと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会について立ち返る機会がなかったところで、今一度、見つめなおしをするという意味ではすごく良い、貴重な御意見をいただいた。皆様方も、もう一度この委員会とは何だろうということも含め、御意見をいただき、後ほど私でも、事務局の方でも構わないので、ぜひ御意見なり御感想をお寄せいただければと思う。 ・また次の議題に繋げて議論していけるならば、おそらく1年に3回ではなく、もっと活発に1か月に1回という話も出てくるだろうと思う。必ず毎回参加するのは難しいかもしれないが、集まった方々だけで積極的に議論していく。それを定期的に行うのが、本当のあるべき姿ではないかと、私の感想である。 ・近隣の自治体、羽生、熊谷、深谷、本庄、鴻巣に比べ、行田には、古代蓮などいろんな歴史的なものがあるが、元気がないように思う。広域活動として、若い人材の発掘、活力ある行田にさせていただく方策を考えていただきたい。
<p>今村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議に最初から参加している1人として、先ほどの皆様の御意見について私自身も反省をしている。御指摘されたように、推進委員会としてやるべきことが曖昧になっていると感じている。当初、市民活動サポートセンターができた時に比べ、団体として欲しいものが随分実現されてきて、今回配布されたパンフレットを見ても前進していると感じる。例えば会議室の使用料減免、無料印刷、ラミネート機器だとか、当初は何もなく、いろんな団体が利用でき、そういう点で当初よりは前進した。 ・先ほどからいろんな委員から御指摘があるように、この委員会

<p>福島委員</p>	<p>として取り組むことが広範囲であったために、具体的な活動を推進することが出来なかった。本来の市民公益活動を推進する委員会の委員として努力が足らなかったと反省している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今村委員を中心に、今年から「MIRAIZ ぎょうだ」というまちづくりの勉強会を始めている。 ・羽生、加須はどんどん発展している、熊谷、本庄方面も違った形で発展して、行田は遅れているような気がしてならない。多分皆様も同じような思いを持っているのではないのか。そういった思いをどこかで話し合いたい。いろんな団体があるが、団体運営していくのは非常に大変である。こういう場に出てきても、力を持っている団体っていうのは本当に少ない気がする。皆様がうまくコミュニケーションが取れるようなことを考えられれば良い。
<p>議長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見をいただき、ありがたいと思う。そろそろ時間もあるため、ここではあまり深く議論できないが、委員会、もしくは課題ができたならワーキングチームや分科会を作ることも考えられる。必ずしも、このような対面の会議形式である必要はなく、場所もどこでもいいと思う。 ・今村委員の発言にもあったが、市民活動サポートセンターについては0（ゼロ）の状態だったものを、今の状況にすることができた。0から1にするのは、大変なことである。1から2、3、4にすることも難しいが、何とかなる。全く暗中模索のところから、ここまでの状況になったのは、自画自賛ではないがすごく前進したと思う。 ・一方で課題がたくさんあり、取り組むべきことが山のようにある。皆様方の御意見を集めながら進んでもらえればと思う。 ・羽生市は、ネクスト商店街事業というものがあり、モールデザインに力を入れている。商店街の活性化策の枠を超えて、まちの中で一般の方も含めて、とても良い雰囲気になっている。商

店街のというよりも、一般の有志の方が一生懸命になって、いろいろやっておられるのは非常に羨ましく感じている。

- ・私は大学に籍を置いているが、若い世代は何も考えてないかという、そんなことはない。ひょっとすると我々以上に考えているのではないか。我々は先に死んでしまうが、彼らは今から生きていく人間であるので、必死に考えている。
- ・誤解を恐れずに言わせていただくなれば、彼らが我々年配者の集団に関わってくるかと言うと、関わってこない。若い世代の中で解決しようとし、ネットワークを作って活動している。決して活動していないわけではなく、無関心なわけでもない。ただ我々と関わりたくないだけである。なぜ関わりたくないかという、潰されるからである。潰さないように関わるのだと言っても、彼らはもう潰されることを学習しているので、絶対に関わらない。自分達でやっていこうと考えている。しかしそれでは世代間の分断が進んでしまう一方なので、どこかでインターフェースとなる機会を作る必要がある。地域に住んでいる人間は、若い世代も年配者も一緒であるので、何かのきっかけを作る必要があると思う。
- ・若い世代の中にも、こういう場に入って来られる方もいる。それは本当に貴重で、絶滅危惧種だと思って良いくらいである。実際には、若い世代の集まりをどう結びつけていくかが課題である。
- ・若い世代とは、やり方も全然違う。我々は会議室で机を並べて議論するが、彼らはインターネット上で全て完結する。インターネット上で冷たい議論をしているのではなく、いろんなツールを使って熱い議論を戦わせている。資金の集め方も、我々以上に上手である。むしろ我々としては、そういう若い世代を支援していかなければならない。若い世代にバトンを渡して、お金とチャンスを与えるようなことである。ただ一方で、彼らは

	<p>失敗のリスクについては、我々の世代以上に抵抗感がある。そのリスクを取り除いてあげつつ、一緒になってやっていくにはどうしたらいいのかというのは、どこでも共通の課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彼らは地元のことだけではなく、社会、全世界的なスケールで考えている。行田に住んでいる若者も同様で、我がまち行田のことよりも、これからの日本をどうするかとか、世界的に目が向いているのではないか。我々としては、その目を地元に向けさせて、一緒にやることを模索していかなければと感じる。フレーム、枠組みを変えることも考えていかなければいけない。 ・これは中期的な問題である。基本計画の内容を詰めるよりも少し長い目で見ることが必要である。 ・後半は私見であるので、聞き流していただければと思う。 ・本日予定されていた議題を全て終了した。議長の職を解かせていただき、進行を事務局にお返しする。
事務局	<p>(3) その他について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民活動サポートセンターより、最近の取組み状況を御報告申し上げます。
サポセン	<ul style="list-style-type: none"> ・サポセン通信 8月号より報告する。行田市社会福祉協議会の「彩の国ボランティア体験プログラム」のうち、9つのメニューに39名のボランティア受け入れを実施することが出来た。去年は、5つのメニューに19名のボランティア受け入れだったことから、バリエーションと受け入れの実績が増えた。 ・社協だより 10月号の表紙に、先程実績報告のあったダンボールコンポスト事業でのボランティア活動の写真が採用された。 ・「市民活動フェア 2022 秋まつり」について、島田委員より説明をお願いします。
島田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・11月19日土曜日に「市民活動フェア 2022 秋まつり」があり、市民公益活動の登録団体から13団体が参加する。その

サポセン	<p>うち、実行委員は7団体が構成している。オブザーバーとして地域活動推進課と市民活動サポートセンターからアドバイスを受けながら活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同日には、水城公園で、おもてなし観光局主催のスカイランタンまつりを予定している。 ・また、毎月第1土曜日に「ぬまのほとりであいましょう」というイベントが開催されており、これも同日に水城公園で開催する。 ・「市民活動フェア2022秋まつり」の時間は、10時から17時までである。ぜひ皆様にも来てほしい。 ・配布した三つ折りリーフレットは、市民活動サポートセンターでデザインし、印刷したものである。伊奈町の県民活動センターや利根地域振興センター等の主要機関に配布済みである。 ・今後、市内の公民館や、図書館にも配布する準備を進めている。 ・お気づきの点があれば、御意見いただけたらと思う。 <p>4 閉 会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉会を宣言
------	---